

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192100192		
法人名	M&N's コミュニケーションズ株式会社		
事業所名	小規模多機能ホーム わかもり		
所在地	岐阜県大垣市南若森5丁目110番地1		
自己評価作成日	平成25年2月12日	評価結果市町村受理日	平成25年4月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_2012_021_kani=true&ji_gyosyoCd=2192100192-00&PrEfCd=21&Versi.onCd=021
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成25年3月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者本位を施設理念に、ご本人、ご家族がわかもりを利用してよかったと感じて頂けるように介護に努めています。外出レクリエーションや、誕生日会など、出来るかぎり個別に行い、「オンリーワン」な思い出をご家族と考えながら提供しています。また、認知症重度の方も積極的に受け入れております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「利用者本位の介護を提供したい」思いで、個々の思いを叶える支援をしている。どんな場面であっても「何故こんな行動をするのか、どうして食べたくないのか」と原因を探り、全職員で対策を考えながら、1対1の支援や少人数で個別支援を重視している。年2回調理アンケートを実施し、リクエストメニューとして取り入れ、鍋料理・サンマ焼き大会・出前デー等で食べる楽しみも工夫している。重度の認知症で家族関係が悪化し利用する人も多いが、事業所の時間や制約にこだわらず家族の希望を取り入れ、早朝のお迎え時間に配慮したり、食事のみ利用や夕方から宿泊のみ利用とか多機能を活かし柔軟な取り組みを行っている。看取った家族の感謝の言葉を糧に、メンタル面にも配慮しながら看取りにも職員が前向きに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定期的にカンファレンスで、小規模多機能の役割を伝えている。また、新人教育でも指導している。	日に2回の申し送り時や日々の介護場面で常に理念を振り返りながら、地域でその人らしい生活が継続できる支援をしている。「利用者本位」を主眼にその日の生活の流れで、職員が協力し合い実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会し、回覧板もまわってくる。ごみ集積場の清掃当番なども参加している。	散歩時に気軽に挨拶や雑談を交わし、野菜や米等の差し入れがある。定期的なボランティア訪問があり、餅つき大会等に地域の小学生が参加している。地域の住民との交流が日常的に行われていない。	新興住宅地で若い世代の住民が多く、事業所への理解も薄く、関り方に苦慮している。様々な機会を積極的につくり、住民の理解や協力が得られるよう働きかけられたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ふれあい餅つき大会を通し、認知症の方との交流を図れた。また、中学生の職場体験で認知症について知識を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて出た、自治会からのご意見も踏まえ、わかもり餅つき交流会を開催できた。	隔月の推進会議は家族が参加しやすいように、夕方・夜間・土日等で柔軟に開催し、家族が交代で参加している。事業所の実情報告と共に、改善に向けた意見を聞いて運営に取り入れている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	随時、高齢介護課に確認、相談、助言をうけ支援している。	各種手続き時等に複数の担当者と相談したり、助言が得られる関係ができています。地域密着型事業所連絡会等では、様々な事例で行政から利用者の受け入れについて、相談を受ける時もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止について勉強会も実施し、現在身体拘束は行っていません。	玄関は施錠せずセンサーを設置している。外出時は職員が背後から付き添い、他の職員が車で先回りして迎えに行く時もある。散歩や喫茶店への外出で気分を変えている。ベッドから転落の危険がある利用者は畳敷きの部屋を利用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止マニュアルを職員に伝達し、勉強会で手順を確認している。		

小規模多機能ホーム わかもり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の勉強会を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、説明、質疑応答行い、納得のうで締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望をうけた際はすぐ職員間で申し送り行い、改善に努めている。	送迎時や面会時に家族から直接意見を聞いたり、連絡ノートで希望を聞いている。家族が遠方の場合、メールで情報を伝え要望を聞いている。全職員でカンファレンスや申し送り時に話し合い、取り入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員面談を通じたり、月1回の全体カンファレンスなどで、意見を聴き、管理者から代表者へ伝えている。	管理者と職員はいつも話しやすい関係にあり、毎日の担当リーダーが意見を提案し運営に活かしている。申し送りやカンファレンスで出た意見は職員で検討し、すぐ実践できる事は取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回、職員個人個人と面談し、処遇、職務の実施状況や思いを確認している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会を月1回実施。法人外研修は施設で一部費用を負担し、職員に参加促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小規模連絡会、グループホームとの研修会など定期的に参加し、意見交換、情報収集している。また、研修などの受け入れにも応じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前段階から出来るだけ自宅、入院機関などをケアマネと職員が訪問をし、職員と日常会話等行う機会をつくっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様同様、こまめに自宅へ訪問し、一度で話しきれない不安や思いを聞く機会を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他小規模多機能をふくめ、地域密着サービス、または在宅サービスや施設サービスなど、選択肢を提示し、必要な際には連携し、サービスに切れ目ができないようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と協働で家事などを行ったり、施設内の掲示物を主となり作成している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様との会話の中で、家族への思いを確認した場合は職員が代わって伝達したり、家族調整を行うこともある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に、出来るだけ今までの生活を継続したうえでサービスを受けられるようにすすめている。馴染の方を呼んだり、場所に出かけることもある。	これまでの生活習慣を大切にし、神社参拝を日課にしたり、自宅に立ち寄る利用者もいる。その日の日課にかかわらず買い物・喫茶店・地区センターに出かけ、馴染みの関係が途切れない支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個性や性格を考慮し、会話ができるように職員が間に入るようにしている。		

小規模多機能ホーム わかもり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話、訪問によるその後の確認の他、お便りをおくったり、Eメールを利用し相談をうけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中での本人の好み、習慣を出来るだけ把握し、アセスメントしている。本人や家族にききとりできたら随時アセスメントシートにつけたし、ケアにつなげている。	利用者に合った言葉掛けや声の大きさに配慮し、目線を合わせてじっくりと思いを聞いている。アセスメントシートを基に利用前の生活や意向を聞いて、様々な場面で表情や仕草を見落とさず、思いを把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一度にすべて確認せず、信頼関係を築きながら本人はもちろんのこと、家族、関係者(近隣、友人など)に同意を得ながら把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	施設での利用の様子、ご家庭での様子を連絡帳や送迎時に確認し、カンファレンス等で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議、ケアカンファレンスを随時開催し、介護計画を作成している。	月1回モニタリングを行い、家族からの要望を聞き医師の意見も取り入れ、全職員で検討し介護計画を作成している。身体状況変化時は随時見直し、申し送りやカンファレンスで職員に周知している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア記録とともに、全体での申し送りを毎日2回以上行い、情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に合わせ、訪問、通所の追加、泊りサービスの柔軟な利用実施している。		

小規模多機能ホーム わかもり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、自治会長などに協力をお願いしたり、馴染の関係の方にも連絡をお願いしている。ボランティアの定期的な訪問もある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要に応じて受診にご家族と共に同行し、情報交換や助言頂き連携している。特に認知症に対し、早期に医療介入できるよう、専門医をすすめるようにしている。	利用者は、それぞれのかかりつけ医での受診を継続している。状態変化時は協力医の指示にて、専門医を受診し連携を図っている。緊急時には、看護師が付き添いかかりつけ医を受診し情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の健康チェックや、受診状況確認、服薬状況など、情報を毎日の申し送りで交換し支援している。必要に応じ、受診時に文章などで連絡、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の情報交換を行っている。特に退院時に関しては出来るだけ早期から連携し、課題を共有することで、退院にむけての準備を共同して行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に出来るだけ終末期にむけての方針を確認している。確認できない場合も、話しあう機会を家族でもてるようにすすめている。職員間でも、カンファレンスにて方針を確認している。	契約時に終末期について説明し、利用者や家族の希望を確認している。終末期で緊急性がなく落ち着いた状態での報告として写真添付のメールで様子を伝え、2人の看取りを行った。医師や看護師の助言を受け、全職員でその都度方針を話し合い確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡体制の確認は随時行っている。急変時は看護師がかけつけられる体制をとっている。緊急時に慌てない様、マニュアルを作成、伝達している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回以上避難訓練を実施している。地域での防災訓練は未実施。	水や食料・毛布等を備蓄し、年2回以上の避難訓練を実施している。地域での防災訓練に事業所の看護師が協力している。人員配置が少ない夜間を想定した避難訓練や地域住民の協力が得られていない。	災害時の避難には、地域住民の協力が必要不可欠と思われる。地域住民の理解や協力が得られるよう更なる働きかけと夜間想定訓練を実施されたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉の大きさ、話かけるタイミングなど、職員同士で意識しあうようにしている。	接遇研修を行い、職員は話し方や言葉使い等プライバシーを損ねないよう常に意識している。トイレ誘導時も腰をかがめ耳元で話しかけ、周りの人に気付かれないよう対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類、食事の好み等、選択肢をもつことで自己決定ができるようにしている。思いが実現できるようにご本人と話あったり、ご家族から聞き取って意向を確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	寝起きの時間も本人の体調、精神状況にあわせて変更している。新聞などを読みながら、時事の会話をし、食べたいものを随時購入したりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染の衣類や化粧品を持参頂いたり、希望に応じて理美容サービスの導入をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	リビングとキッチンが一体になっていることから、自然と匂い、音を確認しながら、ご利用者と食事担当者が会話している。職員も一緒に食事し、談話しながら支援している。	年2回「調理アンケート」でリクエストメニューや希望を尋ね、メニューに取り入れている。調理の下ごしらえやお茶つぎ等の出来ることを利用者が行っている。目の前で小さく切り食材を説明しながら一緒に食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重のチェックや排泄状況を確認しながら、出来るだけお好きな量、水分がとれるように支援している。食事量の低下のある方はご家族に協力を願い、気軽に食べられるように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。専門的なケアが必要な場合は、協力歯科医に相談している。		

小規模多機能ホーム わかもり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、タイミングを確認しながら排泄の支援をしている。必要に応じ、ポータブルトイレの利用などもすすめている。	排泄時間を細かく記録し、個々のパターンを把握し動きの変化等を見逃さずトイレ誘導している。送迎時に自宅での様子を確認し、利用者に合わせて、自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的な水分補給(好みの水分で)を行い、また、排泄チェック表による排便チェックを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日を特に定めず、出来るだ週3回は入浴できるようにしている。尿失禁など急に清潔保持が必要な場合も入浴を追加し、対応している。	好みのシャンプーや入浴剤を使用し、希望で毎日入浴や一人入浴・就寝前に入浴している。個浴で一人ずつ湯を入れ替え、利用者の身体状況により、二人の職員が対応する等、希望に添った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファや和室、個室を利用し、休息をすすめている。枕、寝具は馴染のものを持参頂くようにし、安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が中心となり、薬剤情報をご家族に確認し、必要に応じて受診をすすめたり、主治医と連携している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品も特に禁止事項を設けず、本人の希望に応じて喫煙、飲酒できる体制をしている。本人で管理出来ない場合もご家族に協力をお願いし、本人の意向に沿えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の現在の夢をかなえられるように、誕生日会には出来るだけ個別で外出、外出する機会を設けている。また、季節の自然を楽しむ機会も日常的に作っている。	家族の協力を得て外出・季節毎の花見・喫茶店等へ少人数で何回かに分け出かけている。急な外出希望にも、職員がその場で話し合い外出している。利用者の希望で職員が1対1で日に何度も出掛けたり、エステに行く事もある。	

小規模多機能ホーム わかもり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	契約時に外出時にはお小遣い程度用意していただくように家族に説明している。必要に応じて施設で預かり、本人の希望にて使っただけのようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からの希望に応じ、電話を貸し出している。また、ご家族に、離れて住むご家族、知人と手紙などでやりとりできるように依頼している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然光を入れ、温かい雰囲気になるようにしている。廊下などには季節の写真や作品を掲示し、何を次回飾ろうか利用者様と確認しながら行っている。	常に換気を行い、自然光が差し込む明るく快適に過ごせる共用空間としている。廊下には利用者手作りの作品や季節の花を飾り、玄関周りのプランターに花を植え、季節を感じる工夫をしている。廊下に掲示した行事の写真を眺め話題にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングと離れた場所にもソファを置いたり、仕切りのある和室を利用して、個別に過ごせる時間を過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人専用の寝具を持ち込み頂き、安心していただけるようにしている。	仲の良い利用者は2人で一緒に寝たり、何度もトイレに行く利用者はトイレに近い部屋にと、状態や希望で部屋を決めている。寝具・時計・テレビ・化粧品等使い慣れた物を持参し、居心地良く過ごせるよう配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個室以外には仕切りが特になく、一体となっているため、わかりやすい配置になっている。		